

[成果情報名]イチゴ「恋みのり」のうどんこ病および輪斑病の発病特性

[要約]イチゴ「恋みのり」は「ゆめのか」と比較し、葉のうどんこ病に対して弱く、輪斑病に対しやや弱い。

[キーワード]イチゴ、恋みのり、うどんこ病、輪斑病

[担当]長崎県農林技術開発センター・環境研究部門・病害虫研究室

[連絡先]電話 0957-26-3330

[区分]野菜

[分類]指導

[作成年度]2019 年度

[背景・ねらい]

イチゴ新品種「恋みのり」は、連続出蕾性に優れる点や摘花作業が少ない等の特性から栽培面積が増加しているが、病害虫の発病特性は不明である。そこで、本県で発生する主要病害のうち、うどんこ病および輪斑病の「恋みのり」における発病特性を明らかにし、防除対策に資する。

[成果の内容・特徴]

1. 「恋みのり」は「ゆめのか」、「さちのか」と比較し、うどんこ病の発病小葉率、発病度が「ゆめのか」より高く、「さちのか」と同等、発病果率が「ゆめのか」と同等、「さちのか」より低い（図1、2）。
2. 「恋みのり」は「ゆめのか」と比較し、輪斑病の発病小葉率が「ゆめのか」よりやや高い（図3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「恋みのり」はうどんこ病に対し、小葉が発病しやすく伝染源となるので十分な防除対策が必要である。
2. 「恋みのり」は輪斑病に対し、「ゆめのか」と同等の防除対策が必要である。

[具体的データ]

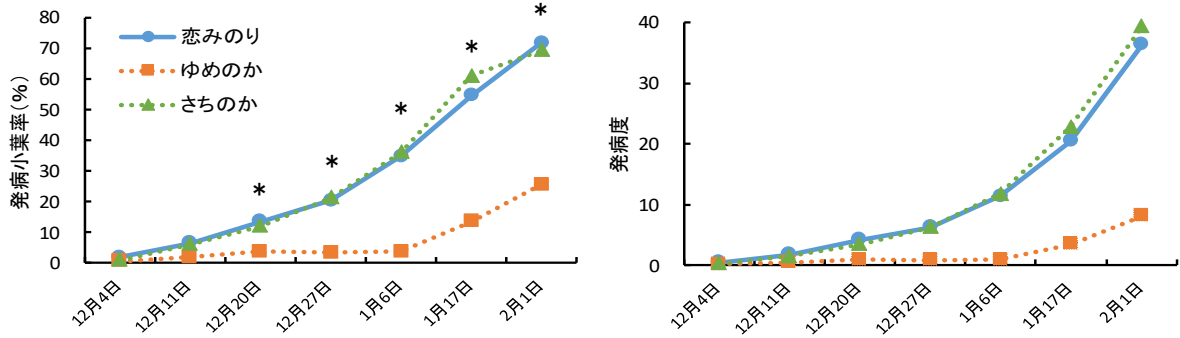


図1 うどんこ病（小葉）の発生推移（2019年～2020年）

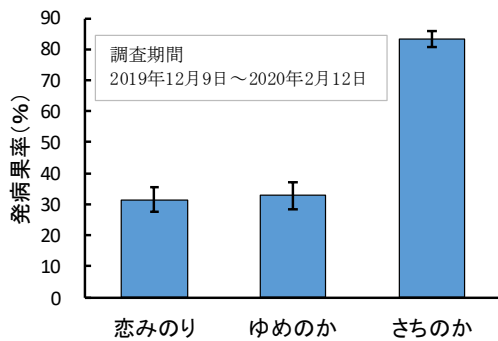


図2 うどんこ病（果実）の発生状況

注) 図1、図2

- ・試験場所：農林技術開発センタービニルハウス
- ・作型：普通ポット（高設栽培）
- ・定植：2019年9月27日
- ・供試株数：1区8株×4反復
- ・病原菌接種：11月13日（発病株設置による間接接種）
- ・発病小葉率の*印はt検定（5%水準）で「ゆめのか」に対して有意差あり（発病度は未検定）
- ・発病果率のエラーバーは標準誤差

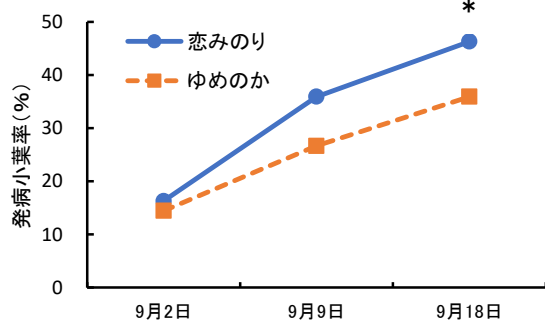


図3 輪斑病の発生推移（2019年）

注) 図3

- ・試験場所：農林技術開発センターガラス室
- ・供試苗数：1区10株（9cmポット苗）×3反復
- ・病原菌接種：2019年8月19日（分生子懸濁液噴霧による直接接種）
- ・発病小葉率の*印はt検定（5%水準）で有意差あり

[その他]

研究課題名：農林業生産現場への緊急技術支援プロジェクト研究
 予算区分：県単
 研究期間：2019年度（平成14年度～）
 研究担当者：難波信行